１　番	黒柳　知世　　議員

質問タイトル（大項目）	質問項目（中項目）	具体的質問内容（小項目）
１．公共施設の再配置を見据えた児童館の機能充実について **【質問趣旨】** 「第６次瀬戸市総合計画『事業評価』と『対話』による事業見直し等令和７年度報告書」（※以後事業見直し）において、尾張瀬戸駅東側地域の活性化について、観光・地場産業・文化・商業振興、地域防災・市民交流等の観点から都市機能の再配置や再構築が示されている。現在、深川小学校跡地、深川公民館および宮前公園を対象としたコンセプトプランが住民とのワークショップを経て作成されている最中であり、また、旧山繁商店は解体工事が開始された。（次ページへ）	（１）尾張瀬戸駅東側地域の都市機能の再配置や再構築の検討状況について	①事業見直しにおいて示されている「尾張瀬戸駅東側地域」とは、具体的にどこからどこまでの範囲なのか、対象施設は決まっているのか伺う。 ②尾張瀬戸駅東側地域の活性化について、どの段階まで構想が進んでいるのか伺う。 ③尾張瀬戸駅の周辺には、文化施設として染付工芸館、新世紀工芸館、ノベルティ・こども創造館、無風庵、北川民次記念館、せとまちツクリテセンターがあり、これらの施設は公共施設等総合管理計画（平成 29 年３月策定、令和５年３月改訂）において、短期的な視点で「必要な機能を精査した上で、機能集約を検討します。」と記されている。また、児童福祉施設として、せとっ子ファミリー交流館、発達支援室は、短期的な視点で「他施設との機能集約を基本に、検討します。」とされているが、それぞれの施設を所管する部署が異なる中で、地域全体の再配置や再構築について、どの部署が中心となり、どのようなスケジュールで進めているのか伺う。 ④瀬戸蔵や文化センターが担う観光・地場産業・文化・商業振興、パルティせとが担う市民交流という様々な役割をどのように組み合わせ、地域の活性化につなげていくのか、個別に検討するのではなく、一体的なまちづくりを行うべきと考えるが、見解を伺う
	（２）本市における児童館の現状と今後の方向性について	①本市が運営する児童館は、せとっ子ファミリー交流館と交通児童遊園の２か所である。複数の児童館を設置している自治体もある中で（尾張旭市９か所、長久手市６か所、半田市７か所※2024 年 10 月１日時点）、児童館の適正な配置や施設数

備考　１．必ず、大項目を【１、２、３・・・】、中項目を【（１）、（２）、（３）・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
２．数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
３．ＭＳ明朝体、１２ポイントで記載する。

１番	黒柳　知世　議員	
質問タイトル（大項目）	**質問項目（中項目）**	**具体的質問内容（小項目）**
一方で、周辺には、機能集約が検討されている文化施設や児童福祉施設が点在しており、地域全体のグランドデザインをどのように描くかが非常に重要になると考える。 東側地域で点在している施設の中で児童福祉施設は「せとっ子ファミリー交流館」が担っているが、中高生世代の利用者数は乳幼児、小学生と比較すると低くなっている。 エリア全体の再構築を見据えながら、中高生も利用できる児童館運営に着目し市の見解を伺う。		について、どのように認識しているのか伺う。 ②児童館を利用していない子どもたちが利用しない理由について、距離の課題が理由の一つであると推察できるが、市の見解を伺う。 ③児童館は、子どもたちの遊びや交流の場だけではなく、必要に応じて相談や支援につなげる役割も担っている施設である。利用できていない子どもたちに対して、このような支援をどのように提供しているのか伺う。 ④令和７年度のせとっ子ファミリー交流館の月別利用実績は、夏休み中の７月と８月が多く、乳幼児は年間 10,364 名中、２か月で 2,114 名、小学生は年間 2,482 名中、２か月で 788 名である。夏休み期間は特に小学生の利用が増えるが、安全に過ごせる環境は確保されているか、夏休み期間特有の課題はないか伺う。 ⑤事業見直しの中で、児童館について「統合を含めて効果的・効率的な配置を検討する」とされている。 しかし、児童館の配置を考えるにあたっては、既存施設の統合や効率化を図るだけでなく、そもそも現在の２か所で市内の子どもたちのニーズに十分応えられているのかという視点も必要である。子どもの人口、利用状況、子どもが安全に通えるアクセスなどを踏まえ、統合だけでなく、施設の増設や既存施設の機能拡充も選択肢になるのではないかと考える。以上を踏まえ、今後の児童館の配置やあり方について、どのような選択肢で検討を進めているのか、見解を伺う。

備考　１．必ず、大項目を【１、２、３・・・】、中項目を【（１）、（２）、（３）・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
２．数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
３．ＭＳ明朝体、１２ポイントで記載する。

１番	黒柳　知世　議員	
質問タイトル（大項目）	質問項目（中項目）	具体的質問内容（小項目）
	（３）パルティせとを活用した児童館運営について	⑥令和７年度のせとっ子ファミリー交流館の年齢別利用実績は、乳幼児 10,364 名（約 80%）、小学生 2,482 名（約 19%）、中学生 105 名（約 0.8%）、高校生 55 名（約 0.4%）である。18 歳未満までが対象となる児童館だが年齢別での利用者数の差をどのように分析しているか伺う。 ⑦子ども・若者会議において、児童館について、「中学生以上でも行ける場所というイメージ作りが必要」との意見が出されている。こうした声をどのように反映していくのか伺う。 ⑧中高生が利用しやすい機能については、従来の児童館機能や自習スペースだけでなく多様な目的に応じて利用できる機能が必要と考える。中高生が求める機能をどのように捉えているか伺う。 ⑨本市において、中高生が学校帰りや休日に気軽に立ち寄り、過ごすことができる場所はどの程度確保されていると認識しているか伺う。 ①尾張瀬戸駅に隣接するパルティせとは、交通アクセスも良く、子どもが気軽に立ち寄れる場所である。せとっ子ファミリー交流館の機能をパルティせとに取り入れ、乳幼児や小学生が過ごせる機能に加え、中高生が過ごせるスペースを設けることで、中学生以上でも過ごすことができる場所になるのではないかと考えるが市の考えを伺う。

備考　１．必ず、大項目を【１、２、３・・・】、中項目を【（１）、（２）、（３）・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
２．数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
３．ＭＳ明朝体、１２ポイントで記載する。